

tenki.jpラボ vol.6 「2015年 日本の“ジメ暑傾向”を発表」 過ごしづらい日本の夏の暑さを検証し「ジメ暑指数」を定義 海外と比較すると、東京の真夏はカイロや、ジャカルタより過ごしづらい！？

一般財団法人日本気象協会（本社：東京都豊島区、会長：繩野 克彦）が運営する天気予報専門サイト「tenki.jp（<http://www.tenki.jp/>）」では、2015年7月21日より、同サイト内の『tenki.jp ラボ』において「2015年 日本の“ジメ暑傾向”」を公開いたします。



1. 「ジメ暑指数」の定義に関して

日本気象協会では、単純な気温による暑さだけではなく、湿度の高い状態が続くことでもたらされる、日本特有の「過ごしづらい暑さ」を表すための新たな指標として、気温と湿度を用いた「ジメ暑指数」として新たに定義いたしました。

さらに、このジメ暑指数が 85 以上になると、ほとんどの人が暑くてたまらず、ジメジメとした不快さを感じると考えられることから「ジメ暑指数が 85 以上の日＝ジメ暑日」と命名いたします※1。

※1 ジメ暑指数 85 は、例えば気温 30 度、湿度 75% の場合に相当します。（これは大体、東京の最高気温と月平均湿度）このような条件になると体感温度は実際の温度より2℃も高く感じます。

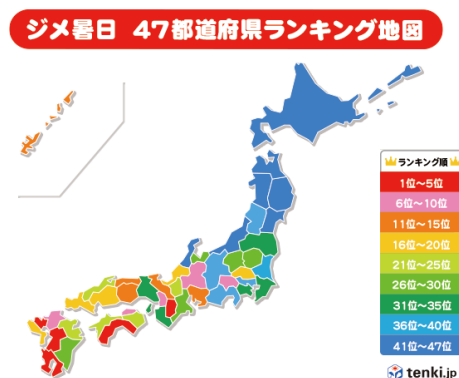
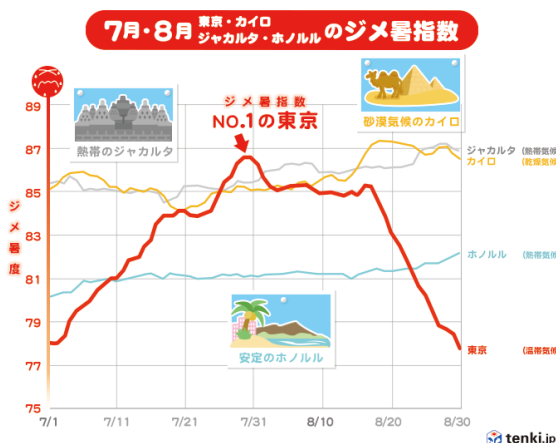
2. 「ジメ暑指数」による暑さの分析結果概要

上記の「ジメ暑指数」を用いて、2014年7月28日～8月1日の世界の気候を分析したところ、エジプトのカイロやインドネシアのジャカルタを押さえて、東京がジメ暑指数のトップを記録していることがわかりました。7月末の東京は、世界的にみてもかなり厳しい環境といえます。

また、国内では過去 10 年の 7 月 23 日～8 月 23 日の間※2 で「ジメ暑日」の日数が多い順に全都道府県のランキングを実施。その結果、1 位が熊本、2 位が鹿児島、3 位が奈良となりました※3。

※2 二十四節気の大暑（快晴が続いて気温が上がる頃）にあたる 7 月 23 日から処暑（暑さが峠を越えて和らぎはじめる頃）にあたる 8 月 23 日

※3 各都道府県の気象官署の数値をもとに計算しています。



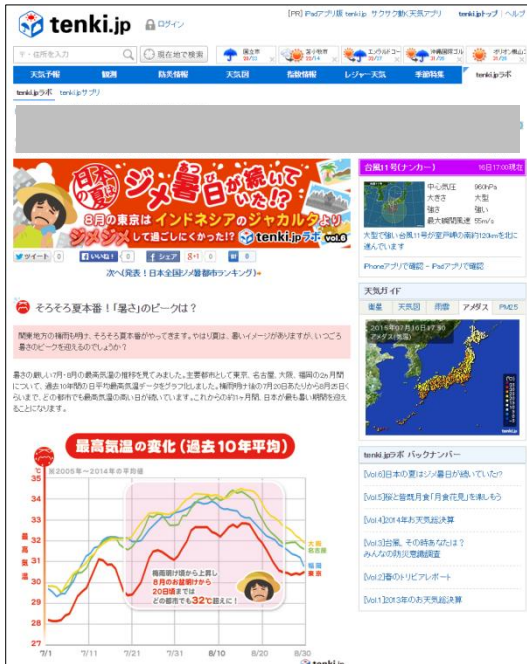
ニュースリリース

3. 「tenki.jp ラボ」に関して

「tenki.jp ラボ」では、天気や防災にまつわる情報を、意識調査や気象予報士の知恵、時節ネタなどを絡めて、より天気や防災に興味を持っていただくことを目的として発信しています。今回で6回目の発信となります。



■tenki.jp ラボ vol.6 アクセス URL:<http://www.tenki.jp/labo/> (PC/スマホ対応)



加えて、報道関係の皆様には、上記分析結果の詳しい情報や全都道府県のランキング、ならびに気象予報士によるコメント、今後の暑さの概況などをまとめたニュースレターを別途、郵送やメールでご送付させて頂いております。是非、今後の気象に関する企画特集などにお役立ていただければ幸いです。気象予報士への取材などもご相談下さい。

※ニュースレターが不達の場合は、下記連絡先までご一報ください。

日本気象協会 PR 事務局 (株式会社イニシャル内) 西野・有田 TEL: 03-5572-6064 MAIL: tenkijp_pr@vectorinc.co.jp

日本気象協会は、1950年の設立以来、60年以上にわたり、広域予報にとどまらない、より生活に身近な都道府県単位の気象予報やピンポイントの気象予報を各メディアや、自社メディアを通して発表している民間の団体です。国内の民間事業者としては最大の規模で、全国に支社や支店、事業所があり、天気予報のエキスパートである気象予報士 278 名 (2015 年 7 月現在) が多面的に業務に関わり、気象予報の業務に関しては 24 時間 365 日体制で最新の情報を発信しております。

日本気象協会が運営する天気予報専門サイト「tenki.jp」

日本気象協会が発表する気象情報を、いつでもご覧いただけるように WEB サイトを通じて全て無料で発信しているのが「tenki.jp」です。

(月間 PV 数 約 100,000,000 / 2013 年・自社調べ) 生活にかかせない天気予報に加え、専門的な気象情報、地震・津波などの防災情報も確認できます。気象予報士が日々更新する「日直予報士」が、人気コンテンツです。

www.tenki.jp

■Twitter: @tenkijp

■Facebook: www.facebook.com/tenkijp